

2007年度第3四半期 国内機関投資家・アナリスト向けテレカンファレンス Q&A (要旨)

日時：2008年2月15日 15:15～15:50

回答者： 藤方 SFH 副社長

嶋岡ソニー生命取締役

藤山ソニー損保取締役

中村ソニー銀行取締役

Q&A (要旨) (敬称略)

Q) SFH 連結ベースでの 2007 年 12 月末時点の B/S では、その他資産が 2007 年 3 月末、2007 年 9 月末に比べて増加しているようだが、その要因は？

A) (生命) 12 月に約定し 1 月に決済 (受け渡し) となった有価証券がかさんだためであり、一時的要因である。

Q) ソニー銀行で 12 月に口座数が非常に伸びているが、その背景は？

A) (銀行) 12 月は毎年ボーナスキャンペーンなどを行っている。円定期でも金利優遇のキャンペーンも行っており効果をあげている。金利が高いということで預金、口座数ともに伸びている。

Q) ソニー生命における、一般勘定資産の内訳 (P.10) について。実質ベースで見た場合に国内株式が全体の 1 割弱、転換社債が 1 割強ということだが 12 月末時点での実額を教えてください。

A) (SFH) 現在、細かい数字を持ち合わせていないため別途、ご回答申し上げたい。

<参考>

一般勘定資産の内訳につき、国内株式および転換社債の 2007 年 12 月末残高は下記のとおり。

国内株式：2,583 億円 (うち金銭の信託に含まれる国内株式：422 億円)

(一般勘定構成比 7.7%)

転換社債：4,277 億円 (うち金銭の信託に含まれる転換社債：1,288 億円)

(一般勘定構成比 12.7%)

Q) ソニー銀行の口座の伸びは、12月よりも1月についてはさらに伸びているようだが、同じ傾向が続いているということか、新たな要因があるのか。

A) (銀行) マスマーケットであるためこれだという要因をあげるのは難しいところはあるものの、さきほど申し上げた通りキャンペーンが例年よりも効果をあげているということがある。ソニーフィナンシャルホールディングス上場による認知の向上や、外部アンケートで顧客満足度1位の評価をいただいたこともあげられると考えている。

Q) ソニー生命における、資産運用費用が第3四半期で増加しているが、有価証券の売却損なのかファンドの解約による損失なのか、あるいは株式市場が動いている中でクレジット関連の評価損、減損が出ているのかなど状況を教えていただきたい。

A) (生命) (第3四半期の資産運用費用が増加したのは、特別勘定において運用損を計上したため) 確かに売却損益は市場の状況により影響を受けるところがあり各期によってぶれるところがある。今年度は第1四半期が大きく、第2四半期は減少。第3四半期は相対的に大きくなっている。変動という意味では売却損益の変動と考えていただいてよい。利配収入も徐々に債券の購入をすすめており、増加の傾向である。

(SFH) とくに特別な証券類の売買などではなく、オーソドックスな生命保険会社の運用の一環とご理解いただきたい。

以 上